

特集

〈事例〉

3度目の優秀賞に見る事故ゼロに向けた継続的な取り組み

公益社団法人
山形市シルバー人材センター

(山形県)

山形市SCは、「安全就業のABC」をスローガンに掲げ、令和7年度に3度目となる「安全就業シルバー人材センター優秀賞」を受賞した。年2回の安全パトロールに加え、事故の再発を防ぐ受注制限や、緊急連絡カードの全会員配布など独自の施策を展開。外部機関と連携した安全講習会や安全就業標語の募集などを通じて、組織が一丸となって事故ゼロの実現に向けてまい進している。

年2回のパトロールで安全意識の定着を図る

山形市SCは、「令和7年度安全就業シルバー人材センター優秀賞」を受賞した。同賞の受賞は平成13年度、令和2年度に続き、今回で3度目となる。継続的な安全対策と地道な活動が高く評価された結果といえる。

同センターの安全・適正就業への取り組みは、理事3人と職群班から選ばれた7人の計10人で構成する安全就業推進委員会と、事務局職員2人の安全就業推進員が中心となって推進している。

活動の基本にあるのが、「安全就業のABC（A…当たり前のこと

を、B…ばかにしないで、C…ちやんとする）」というスローガンである。この合言葉の下、事故ゼロを目指す取り組みを継続してきた。

熱中症予防と害虫対策を重点に夏季安全パトロール

主な取り組みの一つが、安全・適正就業強化月間に合わせて実施する夏季安全パトロールである。

令和7年度は7月7～9日の3日間、各日3か所、合計9か所の就業現場を巡回した。

巡回の主な目的は、熱中症予防対策の確認である。剪定や除草といった屋外作業に従事する職群班を対象に、厚生労働省の「職場における熱中症対策の強化について」

から抜粋した「安全だより」を配布し、法令に準拠した対策が実践されているかを確認した。

会員の熱中症予防に対する意識は高く、長年にわたり熱中症関連の事故は発生していない。令和7年度の巡回でも重大な危険項目は見当たらず、安全就業推進員の原田弘之主任は、「リーダーを中心に、適切な予防措置が講じられていた」と評価する。

巡回のもう一つの目的が、夏から秋にかけて注意が必要な害虫対策の確認である。特にハチによる被害は重篤事故につながるおそれがあるため、屋外作業に従事する会員には防虫スプレーを配布し、正しく使用されているかを確認し

令和7年7月に実施した安全パトロール。熱中症や害虫への対策状況を現場で直接確認し、全員の安全意識を高めている



ている。この点についても、「十分に注意を払って就業していた」と原田主任は語る。

秋には抜き打ちパトロールで対策の徹底を確認

安全パトロールは夏季に限らず、年度後半の11月にも抜き打ちで実施している。令和7年度は11月4〜6日の3日間、夏季と同じく計

9か所を巡回した。

抜き打ちパトロールの目的は、年度前半に事故が発生した就業先を中心に、安全対策が徹底されているかを確認することである。屋外作業が中心の夏季とは異なり、11月は駐車場管理、倉庫管理、清掃業務、商品陳列業務など多様な現場を対象としたが、いずれも大きな指導事項はなかった。

飛び石事故を防ぐため住宅街での受注を控える

センターでは、「事故を起こさない」ことはもちろん、「同じ事故を繰り返さない」ことにも注力している。その具体的な取り組み例が、草刈り作業と剪定作業の受注基準の見直しである。

石川一幸常務理事兼事務局長は、草刈り作業における飛び石事故について次のように説明する。

「これまで草刈り作業における飛び石で、住宅のガラスを破損したり、車両を損傷させたりする事

故に長年悩まされてきました。そこで、住宅街での草刈り作業の受注を控えるという決断をしました。

これは、発注者には不便をかけてしましますが、事故を防ぐための苦渋の選択です」

庭木の剪定作業は樹高3m以内に制限

庭木の剪定作業については、就業会員の安全確保を最優先し、受注する樹高を3m以内に制限している。この基準は、一般的な造園用の脚立で安全に作業できる範囲であり、隣地への越境や電線・建物との接触といったリスクを抑えられるためである。

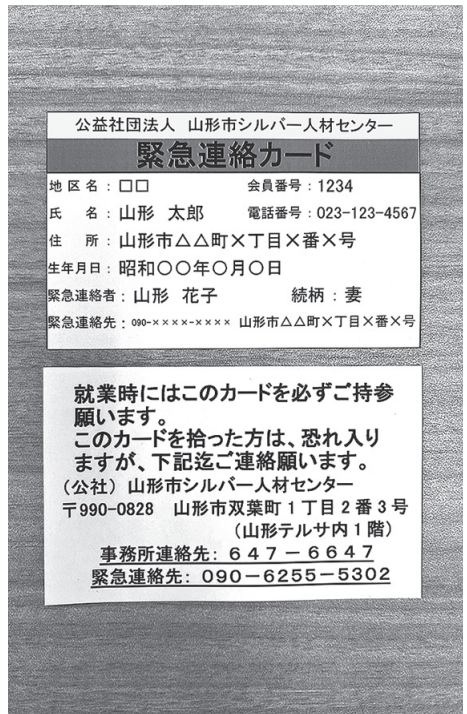
草刈りや剪定の依頼を受ける際には、周囲に飛び石の危険が及ぶようなものがないか、樹高が3mを超えていないかを、グーグルのストリートビューで事前に確認している。判断が難しい場合には、グループリーダーが現地へ赴き、問題がないか実際に安全面を確認

した上で対応を決定している。

いざというときのために緊急連絡カードを会員に配布

就業現場での不測の事態に備えて、約20年前から全会員に名刺サイズの緊急連絡カードを配布している。カード表面には、センター名、会員の氏名、電話番号、住所、生年月日のほか、緊急連絡先となる家族の氏名や電話番号等が記載されており、裏面には、誤って紛失した場合の対応として、拾得者にセンターへの連絡を促す文言を明記している。万が一の事態に備え、就業時には必ず携帯すること、を全会員に徹底している。

原田主任は、「近隣のセンターで就業中に会員が倒れた際、連絡先が分からず対応に苦慮したという話を聞きました。それが緊急連絡カードを作ろうと思ったきっかけです。幸い、これまで使用した例はありませんが、就業中は必ず携帯するよう呼び掛けています」と



全会員に配布している緊急連絡カード。事故が起きた際の家族およびセンターへの速やかな連絡を促す

話す。このカードは新規入会時に作成し、「会員必携安全就業ハンドブック」と共に配布しており、安全パトロール時にも、携帯の有無を必ず確認している。

情報発信と講習で 安全意識を継続的に啓発

センター独自の取り組みとして3か月に1度「事務局だより」を発行している。各地区の代表者を集めた連絡会議で配布し、事故防止の注意点を最新情報を各地区の会員へ共有している。

また、外部機関と連携した安全

講習会も定期的に開催している。

令和7年度は8月1日に、日本赤十字社の救急法指導員を招き、熱中症対策と熱中症になってしまった際の救急法について実践的な講習を実施した。過去には地元の警察に依頼し、交通安全講習を実施しており、多角的な研修を通じて安全意識の浸透を図っている。

標語募集と年5回の委員会 安全意識を醸成

安全講習会開催時には、安全就

事務局だより
令和6年12月26日発行

発行: 山形市シルバー人材センター
山形市双葉町1-2-3 テルサ内
23647-6647 FAX647-6648

今年度は、就業中の事故が多くなっています！

～ 12月まですでに「6件」の事故が発生しています。～

	発生件数	通勤途上	就業中	通勤帰途	損 害	(内)交通事故
5年度	3	0	2	0	1	0
6年度	6	0	3	0	3	0

5年度は年間、6年度は12月20日までの発生件数

～ 冬期間の事故を防止しましょう！ ～

冬期間は転倒やスリップ等による事故が多発しています。
・気象情報を共有し、就業会員みんなで安全対策を行います。
・滑りにくい履物の着用、歩行方法の工夫などで事故を防止しましょう。

インフルエンザが流行する時期になりました！

■季節性インフルエンザは、例年12月から3月頃にかけて流行がみられています。

■インフルエンザの感染予防や拡大防止のためのポイント
・咳・くしゃみが出るときは、他の人につぎかないためにマスクを着用しましょう。
・帰宅後などは、石けんで丁寧に手を洗いましょう。
・室内では適度な湿度(50～60%)を保ち、十分に換気を行いましょう。

インフルエンザワクチンには重症化を防ぐ効果があります。
・ワクチン接種を希望される方は 早めに接種しましょう。(山形市では、対象となる方にインフルエンザ予防接種費用の一部助成を行っています。詳しくは、山形市のホームページをご覧ください。)

年4回発行される「事務局だより」。最新の事故防止情報や注意喚起を掲載し、安全就業を促す

業標語の表彰式も実施している。

センターでは毎年、会員の安全意識の向上を目的に安全就業標語を募集しており、令和7年度は51人から137編の応募があった。

安全就業推進員を務める小澤亮主事は、「令和7年度は募集期間が7月1～16日と短かったため、前年度より応募数は減りましたが、

質の高い作品が寄せられたことをうれしく思います」と語る。最優秀作品には「慣れた作業 ルール順守で事故はなし」が選ばれた。

さらに、令和7年10月10日に開催

された山形県SC連合会主催の安全就業推進大会では、安全就業に関する標語の表彰を行っており、

センターでは最優秀作品、優秀作品、佳作を含む計25編を推薦し、そのうち2編が優秀賞と佳作を受賞した。

センターの安全就業推進委員会は毎年5回開催されており、事業計画や事故発生状況の共有、安全対策の検証を継続的に行っている。令和7年度の開催日と主な議題

は次の通りである。

- 5月14日「令和7年度安全就業推進委員会事業計画・適正就業強化月間の取り組み」
- 6月17日「委嘱状交付・令和7年度事業計画・安全就業標語表彰および安全講習会の開催」
- 8月1日「夏季安全パトロールの実施報告・安全就業標語選考結果報告・安全講習会実施」



令和7年8月1日に開催された安全講習会。同会場にて、安全就業標語入選作品の発表も行った

● 10月20日「山形県安全就業推進大会報告・事故発生状況報告」

- 1月21日「令和7年度事業報告・8年度事業計画(案)」

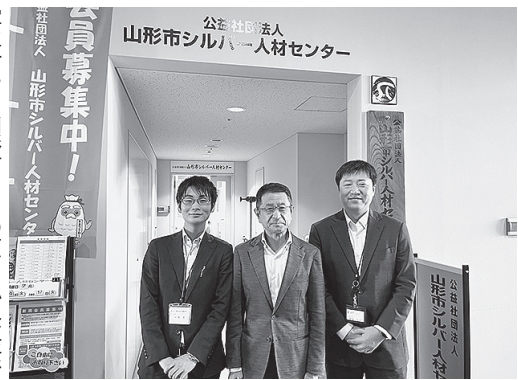
**会員の声を生かし
事故ゼロの達成を目指す**

最後に石川事務局長は、事故ゼロの実現に向けたビジョンを次のように述べる。



令和7年10月10日に開催された山形県SC連合会主催の安全就業推進大会。センターから推薦された安全就業標語のうち2編が優秀賞と佳作に選ばれた

「安全・適正就業への取り組みは、センターが一方的に押し付けるものではありません。会員の声を聞きながら改善を重ねていくことが重要です。例えば、夏場の作業では、小まめに休憩を取りたいが周囲の目が気になって休みにくいという意見がありました。そこで、センターでは『熱中症対策を強化していますので、水分補給など適宜の休憩にご協力ください』



写真右から山形市SCの原田弘之主任、石川一幸常務理事兼事務局長、小澤亮主事

という一文を添えてチラシを作成し、発注先に休憩への理解を求めました。これからも会員と共に取り組み、安全・適正就業について考え、事故ゼロの達成を目指したいと考えています」

(川上和義)

事業運営状況 (令和2年度～令和6年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男性	女性	全体						
令和2	930	375	1,305	1.5	1,035 (136,362)	79.3	3,385	559,450	12.8/87.2
3	937	380	1,317	1.5	1,019 (143,747)	77.4	3,270	599,795	13.3/86.7
4	932	380	1,312	1.5	1,075 (148,525)	81.9	3,254	628,118	13.3/86.7
5	907	379	1,286	1.4	1,085 (146,259)	84.4	3,224	635,333	12.9/87.1
6	899	401	1,300	1.4	1,085 (147,160)	83.5	3,278	672,844	6.5/93.5

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は請負・委任と労働者派遣事業が対象 ※就業延人員は労働者派遣事業の教育訓練受講を含む
 ※令和5年度以降は性別未回答の会員がいるため、会員数の男女計と全体は必ずしも一致しない